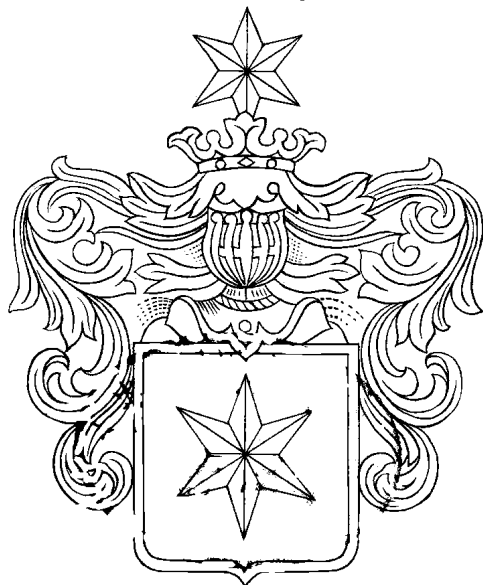


Goethes Werke



ゲーテ全集 5

潮出版社

Goethes Werke

ゲーテ全集 5

1980年1月10日 印刷 1980年1月25日 発行

訳者 辻 理 市村 仁
小栗 浩 熊田 力 雄
寺尾 哲男 小川 超
鵜川 義之助 小塩 節

発行者 富岡 勇 吉

発行所 株式会社 潮出版社
東京都千代田区飯田橋3-1-3 (〒102)
電話 販売部(03)230-0741
出版部(03)230-0781
振替 東京 5-61090

定価 3200円

印刷所 大日本印刷株式会社

製本所 牧製本印刷株式会社

© 1980, Printed in Japan

乱丁・落丁本は送料弊社負担でお取り替えいたします。

目次

タウリスのイフィゲーニエ	
トルクヴァート・タツソー	
ナウジーカア	
かくし娘	
扇動された人々	
パレオフロンとネオテルペ	
エルペノール	
パンドーラ	
エピメーニデスの目覚め	

訳注 391

解説 398

辻	理	5
小栗	浩	69
寺尾	哲男	169
鶺鴒	義之助	175
市村	仁	247
熊田	力雄	293
熊田	力雄	303
小川	超	329
小塩	節	361

ゲーテ全集

第五卷

装幀・中林洋子

タウリスのイファイゲーニエ

人物

イフィゲーニエ

トリアス　タウリスの王

オレスト

ピュラデス

アルカス

場所

女神ディアーナをまつる神殿の前の森

第一幕

第一場

イフィゲーニエ 古い神々しいおい茂った森の

揺れ動くこずえたちよ、おまえたちの影の中へと私は、女神さまの静かな御堂へはいるように、

今でもまだおののきながら足を踏み入れ、まるではじめて森に踏み込む者のように、

心がここになじまぬままである。

あの長い年月のあいだ、ここに私をかくまってくださいたのは、

この身を捧げている女神さまの尊いご意志、でもやはり私は、最初のころと同じように、よそよそし

いままである。

なぜと聞いて、ああ！ この海が私を、愛する人々からへだてており、

来る日も来る日も私は岸边に立ちつくして、ギリシアの国を心で探し求めているが、

私の溜息に答えて、波はただ

くだけながら鈍いひびきを運んでくるだけ。

あわれなのは、親や兄弟姉妹から遠くはなれて、

ひとりわびしく生きてゆく者！ 悲しみにむしばまれて目の前の幸福さえも味わう前に消え去り、

いつもただ心もうつつに馳せゆく思いは父の家へと向っていくが、そこは日の光が、

はじめて空をその目に開いて見せ、また兄弟姉妹が遊びたわむれながら、人知れぬ間にきつくき

つく やさしい絆で結ばれあつてゆくところ。

私は神々と言ひ争ひはしない。ただしかし女の上が嘆かわしい。

家でも戦場でも支配しているのは男、異郷にあつても、男ならば身を助ける術がある。

獲物を喜べるのも男なら、勝利の冠をいただくのも男！ 名譽の戦死も男にこそ用意されている。

それにひきかえ、女の幸福の、なんというせまい限られ

かた！ 粗暴な夫に従うことまでが、義務であり慰めである。

なんとみじめなことだろう、その女が敵意のある運命の手で、遠いところへ流されたなら！

そういうわけでトーアス王という気高い方がこの私を、きびしい神々しい奴隷の絆で、しっかりとここにつなぎとめている。

おお、どんなにか恥ずかしい思いで告白することだろう、

私はあなたに

ひそかな反感を抱きながらお勤めしているのです、女神さま、

私をお救いくださいましたあなたにです！ 本当は私の命は、すすんであなたへのお勤めに、捧げられているべきなのです。

それにいつも私は、あなたにおすがりしてきましたし、今でもおすがり申しております、ディアーナさま、あなたは

この世で最大の王の、しりぞけられた娘である私を、あなたの神々しいやさしい腕に、受けとめてくださいました。

そうです、ツォイスの娘でいらっしやるディアーナさま、あなたがあの気高い男アガメムノンに、娘を捧げるようにと命じて恐れさせ、

最愛のものをあなたの祭壇にそなえた、神々にも等しいアガメムノンを、

トロヤのくつがえされた城壁から誉れも高く祖国へとお連れ戻しになり、

そのうえ彼のために、妻もエレクトラも息子も、美しい財宝も守っておやりになったのなら、

それならばどうかもうこの私をも、家族のもとにお返しください。

そしてあなたが死からお救いくださいましたこの私を、

どうかまた、この地の生活からも、この第二の死からも、お救いください！

第二場

イフィゲーニエ。アルカス。

アルカス 王様が私をここへおつかわしになり、ディアーナさまの司祭であるあなたに、ごきげんようとのことです。

今日はタウリスの国民が女神さまに、すばらしいこのたびの勝利のお礼を申しあげる日、

私は王様と軍隊に先んじて道をいそぎ、

王様がお着きになり軍隊も近づいていることを、知らせにきました。

イフィゲーニエ 私ども一同、威儀を正して、みなさまをお迎えする用意がございます。

そして女神さまは、トース王手ずからの好もしい捧げものを、

恵み深い眼差しでお待ちでございます。

アルカス おお、眼差しと言えば私は、司祭どのの眼差しが、

みんなに慕われ敬われておられるあなたの眼差しが、おお、神聖な乙女どの、もつと晴れやかで、もつと輝い

ていてくれればと思います。

それこそ私もすべての者にとって、吉兆と言えましよう！ところがまだ

悲しみがいかにも秘密にみちて、あなたの心の奥底をおおっています。

私たちはもう幾年となく、あなたの胸の内から発せられる

信頼のこもった言葉を、ただむなしく待ちこがれておりました。

この場所でああなたを知ってからこのかた、私がいつもおののくのは、そのあなたの眼差しを前にしたときです。

そして、まるで鉄の絆きずなでするように、あなたの心は、胸の奥底に縛りつけられたままです。

イフィゲニエ それこそ国を追われ、親を失った女の常でしょう。

アルカス あなたはここで国を追われ、親を失ったようにお感じなのですか？

イフィゲニエ 私たちにとって、異郷が祖国になり得ましようか？

アルカス でもあなたにとっては、祖国が異郷になってしまったのです。

イフィゲニエ だからこそ、血を流すこの心臓が癒えないのです。

まだほんの幼いころ、ようやくこの心が父や母や兄弟姉妹きょうだいに結びつき、

仲むつまじく愛らしく、新しい若い芽の私たちが、古い家系の幹の根から天に向って

まっすぐに伸びようとしていたその矢先、残念にも私を見知らぬ呪いにとらえて、愛する者たちから

この身を分けへだて、美しい絆きずなをば鉄のような拳こぶしで断ち切ってしまったのです。そして消え

去ったのが青春のこのうえもない喜び、若い年月ととつきの華やぎです。命は救われたとは言え、私にとって、

私はただはかない影にすぎず、この人生のみずみずしい喜びは、

二度とふたたび私の胸に花咲こうとはいたしません。アルカス あなたが自分のことをやたらに不幸だ不幸だと

言いたがると、こちらもあるあなたのことを、思知らずだと言えてでしょう。

ね。イフィゲニエ ご恩に感謝はいつもしております。アルカス

謝はしておられない。がしかし、純粹の感

もしそうなら自然にそこから善い行いが生まれてくるものです。

満ち足りた生活と愛にかたむく心とを、

主人に示すあの喜ばしげな眼差しがそれでしよう。

深い秘密にみちた運命が、もう何年も前に、

あなたをこの神殿に連れてきたとき、

トールス王はあなたを、神からの授かりものとして

敬いもし愛しもしながら、お迎えしました。

そしてこの海辺は、あなたにとって、なごやかなやさし

いものとなりましたが、

それまでとはどんなよそ者にとつても、恐怖にみちたもの

でした。

なぜと云つて、あなたより前に、この国に足を踏み入れ

た者は、

古い習わしにしたがつて、一人残らずディアーナさまの

祭壇の前で、

血ぬられた犠牲として倒れていったからです。

イフイゲーンエ 自由に息ができたからと云つて、それだ

けでほんとうの生活とは言えません。

この神聖な場所柄で、自分自身のお墓をうろつきまわる

影*でもあるかのように、ただ悲しんで過すばかりとは、

また何という人生なのでしょう？

ただむなしく夢のように過ぎてゆく毎日が、

結局はあの灰色の日々に向けて私たちを用意し、

それは三途の川のほとりで亡者たちの群*が、

忘我の境地で過している日々だというのは、どうして

それを

楽しくて自らを意識した生活だと呼べましようか？

役に立たない人生とは、早く訪れた死と同じこと、

こうした女の運命が、だれよりも私の運命なのです。

アルカス あなたが、あなた自身に満足しないというその

氣高い誇り、

それを私は大目に見ますが、ただあなたがお気の毒でな

りません。

その誇りが人生の喜びを、あなたから奪つてしまふので

す。

ここに着いて以来、あなたは何もしなかつたといふので

しょうか？

王様の曇りがちな心を、明るくしたのはだれでしょう

か？

よそ者は一人残らず、ディアーナさまの祭壇で、

血を流しながら命を断つという

あの古くからの残忍な習性を、

一年また一年と、やさしく説得しておしとどめ、

捕虜たちをのがれられない死の手から救い出し、

いくたびも故国に送りかえしてやつたのは、だれでしょ

う？

古くからの血を流す犠牲がなくなつたからと云つて、

ディアーナさまもお怒りにはならず、

あなたのやさしい祈りを、たっぷりとお聞きいれになつ

たではありませんか？

勝利は、楽しげにあたりを飛びながら、わが軍のまわりを離れず、

軍に先んじて、敵を制しさえもしたではありませんか？ それに今までは長いあいだ私たちを、かしく勇敢に導いてくれた王様が、今はあなたがおられるために、柔和さをも兼ねそなえられ、われわれの無言の服従の義務を、

易しくしてくださっているのですから、だれ一人として昔にまさる運勢を感じていないものがあるでしょうか？

あなたのお人柄から幾千人の人々の頭上に、恵みの香油がしたたり落ちるのを、あなたは無益と呼ぶのでしょうか？

神さまがあなたを連れてこられて、あなたはその国民に、新しい幸福の永遠の泉となつてやり、

このつれない死の岸辺で、異国の者の命を救い、掃国の手だてをしてやりながら、それをやはり無益と呼ぶのでしょうか？

イフィゲーニエ　まだこの先どんなにたくさんのことが残っているかと、前を見ている眼差しには、

そんなわずかなことは、じきに消えてしまうのです。アルカス　でもあなたは、自分のすることを尊重しない人をほめるのですか？

イフィゲーニエ　自分のしたことを重く見る者は、人から非難されます。

アルカス　氣位が高すぎて、ほんとうの価値を尊重しない者も、

虚栄心が強すぎて、いつわりの価値を持ちあげる者も、同じように非難されます。

私の言うことを信じてください。そして、誠実な心根であなたに仕える男の言葉を、よく聞いてください。

今日王様があなたとお話になったら、どうか王様があなたに言おうとしていることを、言いやすくしてあげてください。

イフィゲーニエ　あたたかいお言葉の一つ一つが心配の種となりませう。

苦勞して私は王様のお申し出を避けてまいりました。

アルカス　何をあなたがしているか、何があなたのためになるか、よく考えてください。

ご息を失われてからというもの王様は、ご家来のわずかな者にしか信をおかず、

そのわずかな者をも、もう以前のように信頼してはおられません。

どんな貴族の息子を見ても、自分の国を継ぐ者としては、好ましいとお思ひにならず、さびしい頼りない

老年を恐れているばかりか、もしかすると、無謀な謀叛や時ならぬご自身の死までも案じておられます。

スキティア人は話すことがうまくありませんが、

なかでも王様はいちばんの話下手です。王様はただ、命令し行動するのばかり慣れており、

思うところにしたがつて、話を遠まわしに

ゆっくりうまく導く術など、知らないのです。

ひかえめに拒んだり、わざと誤解したりして、

王様が話づらくなるようにしないでください。

どうか道の半ばは、自分から迎えてあげてください。

イフィゲーニエ 自分の恐れていることを自分の手で早め

ろと言うのですか？

アルカス 王様が求婚されるのが、恐ろしいと言うつもり

ですか？

イフィゲーニエ 私にとっては何よりも恐ろしいことです。

アルカス 王様のご厚情に対して、どうか信頼の念をよせ

てください。

イフィゲーニエ 王様がまず私の心を、恐れから解き放つ

てくださいたらです。

アルカス なぜあなたは王様に素姓を隠しているのです

か？

イフィゲーニエ 司祭の身には、秘密がふさわしいからで

す。

アルカス 王様には何一つ秘密にしてはなりません。

たとえ口に出して言わないまでも、ちゃんと王様は感じ

ておられ、
あなたが念入りに隠しておられることを、

大きな心の奥底で感じとっているのです。

イフィゲーニエ 私に対して、ご不満とお腹立ちをお感じ

ですか？

アルカス ほとんどそう見えます。あなたのことも何一つ

おっしゃりはしません。

がしかし、時たま口に出されるお言葉から、それとわか

るのですが、

王様のお心は、あなたを妻に得ようとする

願望を、しっかりと固められています。ああ、

どうか王様をほっておかないでください！ さもないと、

王様の胸のうちにお腹立ちがつのつてゆき、

あなたに対してひどいことをなさり、あなたが心からの

私の忠告を、

後悔しながら思い出しても、もうおそいことになってし

まいます。

イフィゲーニエ 何と言われますか？ わが名を愛し、神々

を

敬うことで胸の思いをおさえるほどの、気高い男の方な

らば、

けっして考えてはならないことを、王様が

お考えだと言うのですか？ 王様はこの私を祭壇から、

力づくで臥床にひきずり込もうと言うのですか？
それならば私は神々さまと、またなかでも特に
ディアーナさま、あの決然たる女神さまに呼びかけます。

ディアーナさまは必ずや、ご自分の司祭にご加護をたまわり

喜んで処女の処女たることを、お守りくださるでしょう。
アルカス まあ落ち着いてください！ あらあらしい若い若血に

かりたてられて、無謀にもそんな若気のあやまちまで、
してかすような王様ではありません。王様のお考えで、
私の恐れるのは、それとは別の堅い決心であり、
それを王様は、断固実行されるだろうと思います。
というのも、王様のお心は、堅固で不屈にできているからです。

ですから私はお願ひするのです、もしあなたが、それ以上は何も王様に

さしあげられないならば、どうか王様に、信頼と感謝の念をよせてください。

イフィゲーニエ おお、どうかあなたのまだご存じのことを、お話になってください。

アルカス 王様からお聞きになってください。王様がいらつしゃいます。

あなたは王様を尊敬しておられます。そしてあなたご自身、身の心が、

王様に親しく心をひらいてお会いになるように、命じているのです。

心の気高い男は、女たちのよら一言によって、

はるかに遠く導かれるものです。

イフィゲーニエ(独白)

どうやってあの誠実な人の

忠告にしたがつたらよいのか、それは分らないが、

でも王様の恵みぶかい行いに対して、よいお言葉を返すという義務には喜んで従おう。

そして私が自分に望むのは、権力のある王様に、

お気に召すことをしかも真実にたがわず、言えるということなのだ。

第二場

イフィゲーニエ。トース。

イフィゲーニエ 王者にふさわしい宝物で、どうぞ女神さまが王様を、

まが王様を、

祝福してくださいますように！ 女神さまが勝利と栄誉と

富とご一門の繁栄とをお恵みくださり、

王様の信心ぶかいどんな願いも、かなえてくださいますように！

ように！

多くの人々を、心を痛めながら統治される王様が、

また多くの人々に先んじて、まれなる幸福を享けられますように。

すように。

トース 国民がわしのことをたたえてくれれば、わしは

満足してもよいところだが、

わしがちとったものを楽しんでいるのは、わしよりも他の者たちなのだ。いちばん幸福なのは、

王者だろうと賤民だろうと

わが家に幸いのある者。

そなたもわしの深い苦しみに同情してくれたのが、

敵の剣がわしの息子を、

ただ一人残った最愛の子を、奪い去ったときのことだった。

復讐の念がわしの心を占めていたあいだは、

わしもわが家の寂寥を感じはしなかった。

しかし今、心もみち足りて帰国し、

敵の国は亡び、息子の復讐もとげたととなると、

家には何一つわしの喜びとなるものがない。

今までわしがだれの目の中にも、

輝くのを見てとった楽しい服従の心が、

今は憂いと不満によって、ひそかに曇らされている。

だれもみな、将来はどうなるだろうかと案じながら、

子供のないわしに、ただせんかたなしに従っている。

さて今日わしが、この神殿にまいったのは、

よくここに来てするとおりに、勝利を乞い

勝利に感謝をするためだ。ただそのほかに、かねてから

一つの願望を

わしは胸に抱いているが、これはそなたにとつても

無縁でなく予期せざるものでもない。わしはそなたを、

国民の幸福のため、わしの幸せのために、

花嫁としてわが家に迎えたいのだ。

イフィゲーニエ ああ、王様、素姓も分らぬ女に、それは

またあまりにももつたいない

お申し出です。かりそめの身の私は、王様を前にして立

ち、

恥じいるばかりです。私はこの岸辺で、王様がお授けく

ださいました

保護と安らぎ以外の何ものも、求めてはおりません。

トーアス そなたが素姓の秘密を、下賤の者に対してのよ

うに、

王たるこのわしにまでいつも隠しているのは、

どんな国民のもとでもまっとうなことではなからう。

この岸辺は異国の者をおびやかす。法律と

必要とがそれを命じているのだ。だがそなたは、

神に仕える身のあらゆる権利を得て、言ってみれば

われわれに迎えられた客人であり、思うがまま

欲するがままにその日を送れる身、そのそなたから

わしは信頼の念を望むのだが、それはもてなす主人とし

てみれば、

自らの誠実さに対して、当然期待してもよいはずのもの

であろう。

イフィゲーニエ ああ王様、私が両親の名前と家柄とを隠